

黒沢常五郎さんが初当選

七月七日に執行された任期満了に伴う町長選挙は、町内十二か所で投票が行われ、即日開票された結果、黒沢常五郎さん（71歳、善徳寺）が初当選されました。

「いつまでも住みたい町づくり」をキャッチフレーズに生涯学習社会の確立や安心して暮らせる水の確保、子供や青年にも開かれた行政などを公約として支持を求め、めぐり当選されました。黒沢さんは、小幡農業学校（現、富岡実業）卒、昭和四十六年から五十八年まで三期町議、その間、副議長を四年、議長を四年務めた経験を持ち、その他甘栗産地社会教育振興会長や町文化協会の会長も歴任しています。

七月二十三日には大勢の支持者や町職員に出席えられ初登壇。黒沢町長のもと新たな町政の推進が始まっています。今後の活躍に期待しましょう。

みたい町づくり 新たな町政がスタート



町長のバッジを付け、決意を新たにする黒沢町長

就任にあたっての ごあいさつ



黒沢町長

この度町民皆様方の御信任を賜り、甘栗町長に就任いたしました。皆様すでに御承知のように本町は、温帯で先見性にすぐれた町民性により、歴代町長のものと名実共に安心と希望のもてられた町が作られて参りました。この伝統と活力をます私は厚び、美しい自然と温かい思いやりの町、家族のような親しみのある町づくりに全力を挙げたいと思っております。自然の恵みを代表するのは水であり、あらゆる産業を興し、生活環境を豊かに守り、この町のあらゆる歴史文化を育くみ、健康で希望に満ちた町をつくるには水について真摯に取り組みその合理性を考えたいと思っております。もう一つは、すべての人間の活動や思考の源は心であります。眼に見えない、形もない、この心が一人一人の活動力や、よい社会への希いを思い、すばらしい社会文化をつくっているわけです。厳しく、全く進路に異なるような社会で、中小の

企業にたずさわる方々、景気沈滞の中にあえぐ商工業の皆さん、歳が安くこじんやぐも不安定で歳を抜いても後に作るのは何もない、農畜産業の深い悩み、怒りにも似た厳しさにさらされている時代です。いつまで続くかわからない現状なのです。しかし生きなければなりません。しかし次の時代にならう可愛い子供達のためにも、半歩でも一歩でも希望に向って勤勞のフアイトを興やしましょう。農業にも商工や企業の中にも、小さいが新しい発想の芽があることも聞かれています。人間にすべての原動力である心のあり方を、一人一人しっかりと確立して手をなすさな活力の町にいたしましょう。年々高齢化が進みますが、老齡者を、体の不自由な方々を、しっかり支えて下さっているのは、働き盛りの若壮年の皆さんであり又将来性のある子供達です。未来社会をになう子供達を健康で心豊かに育ててゆく教育の町にしたいのです。現在たつた今のこの町をそして地域社会を又大きくは因方の源は若い力、若壮年の皆さんです。恐らく皆さんこそあらゆる面で行政への期待が大きく又素晴らしい対応を熱望されているにちがいないと思っております。先にも触れたように厳